

而シテ是等ノ地方ハ鐵道運輸ノ便アルヲ以テ一タビ米作ヲ開カハ其收穫物ヲ附近市邑ニ賣リ出スニ都合ヨキノミナラス現ニレヲボルヂナ地方ノミニテリヨ港ヨリ輸入セル外國米ヲ仰クモノ一年間凡ソ二十八萬基路ニ達スト云ヘハソノ所作米穀ハ之ヲ他州ニ賣リ出ス迄モナク皆其ノ地方ノ消費ニ充ツルヲ得可シ(伯國ニ於ケル外國米ノ總輸入高並米價ニ關シテハ本號商業ノ部參考)然ルニコノ地方ニ於ケル地主並ニ移民等カ米ノ耕作ヲ等閑ニ附スル所以ハ全ク農業家ハ多ク珈琲ノ一方ニ傾キ移民ノ勞働ハ盡ク珈琲耕作ニノミ吸收セラレテ他ノ耕作ヲ爲スノ餘力ナキト且ツハ此地方ノ勞働者ハ全ク米ノ耕作方法ヲ知ラザル者ナルカ故ニ之ヲ試作スル者少ク間々之レアルト雖モ其方法極メテ幼稚ニシテ山地又ハ水澤ノ地ニ米實ヲ撒布シタルニ止リ其後ハ一回タニ除草等ノ手入ヲ爲サルカ故ニ稻ハ全ク雜草ニ没却セラレテ充分ニ生長スル能ハサル有様ナリ(或ハ又一作ニ收或ハ一播種ノ後五年モ繼續セシムルト云フ即チ一タビ刈取リタル株根ヨリ生ズル新芽ノ生長シテ結實スルヲ待テ幾回モ刈取ルモノト推測セラレタリ)コレ地價ノニレニ適セザルニズラズシテ全クソノ方法ヲ得ザルニ在ルノミ、如何ト

ナレハ或ル地經ノ耕地内ニ試作シタルモノヲ見ルニ穀粒充實シテ其品質亦佳良ト認めタリ
 尙ホ米其他ノ耕作ニ關シテ其一端ヲ聞クニ米ハ九月播種シテ三月收穫セリ、種量一「リットル」(我五合五勺強)ニ付收穫ハ七十乃至九十「リットル」ナリ即チ我三斗八升五合乃至四斗九升五合強ニ當ル耕地ノ面積ハ十八乃至二十一「ネートル」ノ地ニ六二十五「リットル」(我一斗二升七合五勺強)ヲ收ムルヲ得可シ殊ニ濕地收穫多シ陸稻ハ一作ニ收ニシテ除草モセス肥料モ施サス播種ノ儘放置スルナリ水田ナレハ一タビ播種ノ後ハ五年モ放置シ置キテ結實ノ時ニ刈取ルナリ甘蔗ハ二年目ニテ搾汁ヲ始ムルモ十五ケ年位ハ年々新芽ヲ出シテ繼續セリ其他綿、玉蜀黍ハ九月播種シ小豆ハ三月播種スト云ヘリ要スルニ農作ハ一般ニ幼稚ナルカ上ニ耕地ハ望ミ次第之ヲ擴張スルヲ得ルニ付農業家ハカヲ小區域ニ極メスシテ擴張ノ一方ニ勉メリ)
 此ノ地方ハ到處ニ河川泉流アルヲ以テ灌溉極メテ便ニシテ冬時ノ乾燥期ニ於テモ灌水ニ不便ヲ感スルコト無ク特ニ夏期ニ於テハ毎日定時必ス驟雨ノ來ルアルヲ以テ稻田ノ

乾涸龜裂スルノ患ナキノミナラズ若シ田水過剰ノ際ニハ水渠ヲ作りテ之ヲ其近傍ノ河
流ニ注導スルコト極メテ容易ナルカ如シ約言セハ天然ノ氣候地質ヨリ運輸灌溉並ニ米
穀ノ需要等ノ諸點共ニ最モ米ノ耕作ニ好適スルノ地方ト認メタリ
土地ノ農業家中米作ノ利ヲ説クモノナキニアラサルモ概ネ珈琲ノ管テ非常ニ利益多カ
リシニ眩惑シ現今ニ至ルマテ大ニ米作ヲ興セシモノナシ而シテ一方ニハ高價ノ外國米
ヲ仰ケリ故ニ我國起業者ニシテ右等ノ事情ヲ詳ニシ實地ニ就テ收支ヲ豫算シ大ニ米作
ヲ興サハ隨分面白キ事業ナラント信セリ其方法ハ先ツ稻田ニ適スル地所ヲ選擇シ其拂
下ケヲ州政府ニ請フ可シ然ル時ハ政府ハ其所有者ニ説諭シテ最モ低價ニテ(殆ント無
代價ニ)之レカ拂下ケヲ爲ス可ク且ツ前章ニ掲載シタル各條件ノ便宜ヲ與フルコトヲ
モ承諾ス可シ然ル後本邦起業者ハ米作ニ經驗アル本邦農夫ヲ率テ渡伯シ茲ニ始メテ米
作ニ從事スルヲ得可シ該地方ニ於ケル農業主ハ大抵廣大ナル土地ヲ有シ宏壯ナル邸宅
ヲ構ヘ中ニハ宛然宮殿ノ如キモノアリ之ヲ聞ケハ皆所有地内ノ物質ヲ取り自家ノ工場
ニテ之ヲ製作シ毫モ他ニ仰カスト云フ而シテ其創業ヲ聞ケハ遠クモ二十餘年前ナリ主

人ハ素朴ニシテ手裏ノ厚キコト農夫ニ異ナラス孰レモ多年ノ堅忍勉強ニヨリテコノ成
功ヲ致セシモノト見受ケタリ若シ本邦ニ於テ伯國農業ニ志ヲ立ツル人アラハ此等ノ事
情ヲモ併考セラレタキモノナリ
右ニ就キ二十五年以來ミナス州ニ居住シテ州内ノ事情ニ精通セル白耳義國領事ノ云フ
所ニヨレハ本州ノ地質氣候ハ到ル處米作ニ適スルノミナラス既ニ一度雜木荆棘ヲ截伐
シテ開拓シタル地所ニシテ勞働者ノ缺乏ト前年來ノ恐慌トノ爲メニ資力ノ繼カサルト
ニ依リテ之レカ拓殖事業ヲ中絶シ全ク廢棄ニ委シタル廣大ナル土地ハ屈指ニ暇アラサ
ルヲ以テ若シ日本ノ一會社等ニテ之ヲ廉價ニ購入シ以テ之ヲ稻田ニ使用セハ其利益ノ
大ナルコト明瞭ナリト云ヘリ右ニ關シ同領事ハ尙ホ注意シテ曰ク若シ日本農民ヲ率ヒ
來リテ殖民地ヲ作ラントセハ必ス之レト同時ニ諸商人並ニ諸種ノ工業者即チ仕立屋、
大工、左官、石工、指物師靴師其他日要必須ノ諸器具ヲ製造スルモノヲ併來ラシメ宛
然タル日本村落ヲ作り出スヲ可トス然ラサレハ諸工錢並ニ其他ノ物價高直ナルニ付日
本農夫等ハ勞働シテ得タル所ノ賃銀ヲハ悉ク外國人ニ儲ケ得ラル、ノ恐アレハナリ云

云、右ハ頗ル適切ノ觀察ト思惟スルカ故ニ之ヲ併記ス

附言 サンパウロ州ノ米作ニ關シテハ既ニ申告シタル處(本號商業ノ部参照)同州トミナス州ノ米作ハ孰レヲ優利トス可キヤ今俄カニ斷定ヲ下シ難シ思フニ入り易キ一點ハサンパウロヲ優トスヘキモ其他ノ利害ハ起業家ノ判斷ニ任ス可シ

第三章 鑛 業

當伯國ニ於テ鑛產ヲ以テ有名ナルハミナス、ジエライス州ヲ第一トス即 Minas Geraes ノ名ヲ命セラレタル所以ナリ其種類金、鐵、滿俺及ヒ金剛石ナルモ、鐵ハ之ヲ鑄解スル石炭ニ乏シキヲ以テ目下營業中ノ重ナルモノハ金、滿俺及ヒ金剛石ノ三種トス、金ハモロウエリヨ坑、サンベンセント坑、パッサージェン坑(已上英人ニ屬ス)トナ、フロリスベロ坑(伯人)及コステ坑(未詳)ノ五ヶ所ナリ滿俺ハラフアイエツト附近ニ於ケル三坑ノ外ケルツツ坑アグア、ブレタ坑、ミゲル、ブルニエ附近ノウキグ坑(以上伯人)サンゴンザロ坑、ゴンサレス坑ラメス坑(已上佛人)ノ七ヶ所ニシテ金剛石ハチャコンチナ坑(米人)リヨデガルモ坑(伯人)及サン、ジョン、デル、レネ

附近ノ某坑(英人)ノ三ヶ所ナリ而シテ本官ノ實視シタルハモロ、ベツヨ一金坑及ウキグ滿俺坑ノ二ヶ所トス金剛石坑ハ鐵道ノ交通ナク百二十基米突ノ間、馬背ノ旅行ヲ要スルヲ以テ之レニ赴クヲ得サリキ
抑々當國金鑛ハ百年前ヨリ開鑛シ近年迄舊式ニ從テ採掘セラレタルニ拘ラス出鑛高ハ多額ナリシカ新式ノ機械ヲ採用以後ハ一層満足ノ結果ヲ得タリト云フモロ、ベリヨ坑ハ英國「セントジョン、デルレー」會社ノ營業ニシテ殆ント七十年前ノ開鑛ニ係ル、今ヲ距ルコト二十年前火災ニ罹リシ時會社ハ同鑛ノ利益少キト復興ノ至難トヲ慮リ一旦放棄シタルモ當時ノ技師長即現今ノ主任シヤーマン氏ハ二ヶ年ノ長日月間山中ニ立籠リ測量ノ結果繼續營業ノ大ニ見込アルヲ發見シ再三會社ヘ建議シテ漸ク再興ヲ許サレ方法ヲ變ヘ機械ヲ盡ク新式ニ改タメ營業ヲ始メタル處、着々其功ヲ奏シテ今日ノ盛大ヲ致セリ會社ノ資本金ハ英貨五十萬磅ニシテ火災前凡五十年間採掘高ハ五百十七萬餘磅其營業費二百五十餘萬ヲ要セシカ近年一ヶ年ノ採掘五千「オンズ」ナリト云フ(一説ニハ三十五萬磅ノ利益アリト云フ)鑛石一噸ニ付純金ノ割合ハ一説ニハ「一」ヲンス

ノ十分ノ六トアルモ他ノ一説ニハ三百八十七「グレイン」トアリ而シテ同礦ハ伯國金
 礦中純金ノ割合少キ方ナリト云フ同礦ノ事務ハ各課ニ分レ八名ノ技師之ヲ分管シ職
 工、鑛夫トモ凡二千八百人ヲ使役セリ鑛夫ノ賃銀ハ一日二「ミル」四百五十「レース」ナ
 リト云ヘハ現今ノ相場ニ從ヘ一圓七十一錢五厘ニ當レリ職工及坑夫ノ半數ハ伯國人ニ
 シテ残り半數ハ西、伊兩國人相半ハスルモ伯國人ハ怠惰ニシテ欲望ナク西班牙人ハ激
 昂シ易ク動モスレハ同盟罷工ヲ企ツルコトアレハ若シ得可クンハ試ニ日本人ヲ使用シ
 タシト同主任ハ言ヘリ

ウキツグ滿庵鑛ハ伯國人ウキツグ氏ノ所有ニシテ十年來ノ營業ニ係レリ抑々伯國ニ於
 テ初テ滿庵ヲ發見シタルハ千八百八十八年頃ニシテ夫レヨリ各礦漸ク開ケ現今ハ全州
 ノ產出高併セテ二十五萬噸ニ及ヒ其內當礦ハ六萬噸ヲ產出セリ(露國ハ三十萬噸ヲ
 出シ印度ハ若干ヲ出スト云フ)同礦主任ノ言ニ據レハ初メ伯國ノ滿庵發見前ハ歐洲ニ
 於ケル同品ノ相場ハ十五ノ位ヲ保テシカ發見後九ニ下落セリト云フ又各鑛トモ石炭ニ
 乏シキ爲メ精練セズ礦石ノ儘輸出スル由、同礦ニテ使用坑夫ノ數ハ凡四百人ニシテ

坑內勞働ハ賃銀一日二「ミル」六百「レース」(凡我二圖)坑外勞働ハ二「ミル」三百「レ
 ース」(凡我二圖)ニシテ勞働者中ニ十四五歳ノ少年モ見受ケタリ要スルニ坑內ノ勞働ト
 テモ前記金鑛ニ比較セバ聊カ容易ナリシト見受ケラレタリ

前記兩鑛ノ内モ、ウエリヨ金坑ノ如キハ驚ク可キ大仕掛ニテ而カモ善ク整備シ居リ
 且ツ重ナル機械中同鑛ノ發明ニ係リ他ニ比類ナシト云フモノサヘアレハ若シ専門家ニ
 シテ一覽シタランニハ其利益少ナカラサルヘシト思ハル、モ素人ナル本官等ニハ一々
 説明シ難キニ付茲ニ之ヲ略ス

本官等ミナス州ノ首府滯在中各鑛ニ關係多キ一ノ鑛業技師ニ就キ本邦技師聘用、坑夫
 移入及新鑛開採ノ三事ヲ目的トシテ意見ヲ尋ネタル所、技師聘用ニ付テハ何等答フル
 所ナキモ他ノ二事ニ關シテ大要左ノ如ク答ヘタリ

(鑛夫移入ニ關シテ)金鑛ハ重ニ英人ノ營業ニ屬シ坑夫ヲ使用スルコト最モ多キモ一
 坑僅カニ數百餘人、多キモ千餘人ニ過キス滿庵ハ概ネ伯國人ニ屬シ一坑使用ノ坑夫百
 人ヨリ五百人位ニ止マレリ金剛石坑ハ百五十人以下五十人位ナリ金坑ハ伊、西兩國人

多ク金剛石ハ概テ伯國人ナルモ近年ハ概シテ新式器械ヲ据付ケシ爲メ大ニ坑夫ノ數ヲ省キ且ツ習練ヲ要セリ坑夫ノ賃銀ハ平均ニ「ミル」五百「ロース」最上ニ「ミル」八百「ロース」ナリ右ノ次第ニ付若シ日本人ヲ移入セント望マハ鑛業ヲ止メテ寧ロ農業ヲ目的トス可シ何トナレハ鑛業ハ需用少ク且ツ習練ヲ要シ農業ハ習練ヲ要セスシテ之ヲ容ル、地無限ナレハナリ、但鑛業トテモ常ニ坑夫ノ不足ヲ感セサルニアラズ云云

(新鑛開採ニ關シテ) 廣漠タルミナス州中鑛業ノ開ケ居ルハ小半部ニ止マリ此外未開ノ大半部ニ於テ如何ナル新鑛ヲ發見スルヤ今ヨリ豫測シ難シ日本ノ資本家ガ技師ヲ派シテ之ヲ探險セバ大ナル稜物ナキニ非サルヘシ又云フ鐵ハ非常ニ多ク往々外面ニ露出シ且其鐵分ハ百中六十ヲ含ム良質ナルモ惜ム可キハ當州ニ石炭ヲ産セス近頃南リヨ、グランド州ニ之ヲ發見シ米國技師ハ試驗中ナレハ若シ同州ニ多量ノ石炭ヲ産出スルニ至ラハ當州ノ鐵モ之ヲ探掘シテ市場ニ出ヌヲ得ヘシ云々又云フ當州ノ鑛業ハ頗ル自由ナリ州内航通シ得可キ河流ノ外、大概個人ノ所有地ナルニ付地主ト契約セハ可ナリ別ニ政府ノ許可ヲ要セス又鑛業稅ノ規定ナシ云々

第四章 牧畜及附帶ノ産業

牧畜業ハミナス州ニ於ケル重ナル産業ノ一ナリ如何トナレハ州ノ境土頗ル廣濶ニシテ而カモ其大部分ハ未墾地ナルカ故ニ之ヲ利用スルノ方法ハ牧畜ヲ以テ最トスレハナリ加之氣候温暖ニシテ年中牧草ノ缺乏ヲ告グルコト無ク且四時寒温ノ度甚シク相異ナラサルカ故ニ(或地方ニテハ寒暑ノ差攝氏十度ナリト云フ)所謂冬期間ト雖モ尙ホ牛馬ヲ牧野ニ放養シ得ルヲ以テ何等之レカ飼養ニ關シテ手數ヲ要スルコト無シサレハリヨ州ノ境界ヨリミナス州ノ稍々中央ニ近キノ首府ベロ、ヲリゾンテニ至リ汽車程凡ソ十二時間中央線路ノ通過スル沿道附近ハ多ク牧場ニシテ其間林叢斷續ノ處、目ニ入ル所ノモノハ概シテコレ牛馬豚鶏ノ群ナリト云フヲ得可シ特ニベロ、ヲリゾンテ以北ノ地ハ尙ホ廣濶ニシテ最モ牧畜ニ適スル所ナリト云ヘハ全州ヲ統計セハ其牧場如何ニ廣大ナルカヲ推知シ得可シ、且ツ牧畜業ハ偏ニコノ「カシボス」地方ニ限ラル、ニアラズシテ概言セハ州ノ到處皆牧畜ヲ兼業スト云フヲ得可シ如何トナレハ農業地方ニ於ケル珈琲園主ナル者ハ勿論專ラ珈琲耕作ヲ主トスレトモ其副業トシテ必ス牧畜ヲ爲サル

者ナキカ如シサレハ所謂農業主(ファゼンデロー)ナル者ハ必ス其家ノ近傍ニ少クトモ二三十頭ヨリ多クハ二三百頭ノ牛馬ヲ飼養セサルモノ無キカ如シ、州ノ廣袤濶大ニシテ他州ニ接壤スル所廣ク且ツソノ輸出統計等ニ關シ何等ノ設備ナキヲ以テ固ヨリ其精數ヲ知ルニ由ナキモ千九百〇一年間同州ヨリヨ州ニ輸出シタル牛數ノミニテ十二萬七千二百二十四頭ニ上レリト云ヘハ其他ハ之ヲ類推シ得可シ

馬及豚并ニ家禽即チ鷄鶩ノ屬モ亦コレ當州輸出物ノ重ナルモノニシテリヨノ市場ニ上ルノ鷄鶩ハ其大部分ハ當州ヨリノ輸出ニ係リ一年間ノ輸出凡ソ三百萬羽ニ及フト云フ然ルニ當州ニ於テハ嘗テ家禽飼養ヲ專業トシテ營ミタルモノナク各戸ソノ副業トシテ之ヲ爲スニ過キス而シテ之ヲ呼ンテ副業ト云フト雖モ何等之レカ飼養ニ注意シテソノ世話ヲ爲スニアラス只タ放飼スルノミナルモ天候地宜ヨク此等家禽ノ發育ニ適スルヲ以テ斯クハ多クノ輸出ヲ爲スヲ得ル者ナリト云フサレハ當州ニ於ケル農家ハ大小ト無ク孰レモ其家ノ前庭後圃ニ幾十羽ノ鷄鶩ヲ放飼セサルモノ無キカ如シリヨヨリノ鷄商等ハ各戸ニ就キ六七羽ツ、ヲ買集メ以テコレヲ輸出スルモノナリト云フ故ニ專ラ

リヨ市場ニ輸出スル目的ヲ以テ此地方ニ於テ家禽飼養ヲ專業トスルモ亦以テ一ノ有望ナル産業タル可シト云ヘリ

前述ノ如ク牛ノ飼養盛ニ行ハル、ヲ以テ其必然ノ結果トシテ「パタ」及ヒ「チース」ノ製造業ハ州ノ重要産業ノ一トハナレリ、今リヨ、デ、ジャネトロ市へ輸出シタル高ヲ見ルニ左ノ如シ

一千八百九十九年

二萬九千二百九十九基路

一千九百年

六萬二千五百五十九基路

一千九百〇一年

十四萬七千八百八十六基路

其他附近ノ各州ニ輸出セシモノ亦タ少ナカラスト雖モ今統計ノ以テ徵ス可キモノ無シ、併シ其最モ多ク輸出サル、ハリヨ及ヒサンパウロノ二州ナリトス

「チース」ノ製造高并ニ隣州へノ輸出額ハ統計表ナキカ故ニ其數ヲ知ルニ由ナシト雖モ實際「パタ」ノ輸出高ニ讓ラサル所ナリト云フ現ニミナス州ニ於テハ今ヤ全ク外國輸入ノ「パタ」及「チース」ヲ用ユルモノナシト云フ

八九年前ニ在リテハ伯國內到處ノ市場ヲ專占セシモノハ皆外國製ノ「バタ」及「チース」ニシテ特ニ佛國ヨリノ輸入品ハ殆ント伯國需要ノ全般ヲ充タシタル有様ニシテミナス州ニ迄其販路ヲ擴張シタリシカハ伯國政府ハ自國ノ産業ヲ保護センカ爲メニ外國製ノ「バタ」及ヒ「チース」ニ非常ナル高稅即チ禁止的稅率ヲ賦課スルコト、ナリテヨリ

ミナス州ノ「バタ」及「チース」製造業ハ稍々萌芽ヲ出スニ至レリ
然レトモミナス州産ノ「バタ」及「チース」ハ其製造高尙ホ僅少ニシテ廣ク伯國ノ需要ニ應スルニ足ラサルノミナラス其製法亦タ幼稚ニシテ容易ニ腐敗シ易キカ爲メニ長ク貯藏ニ堪ヘズ且ツ其風味モ尙ホ遠ク外國品ト競争スル能ハサル所ナリサレハ當局者ハ百方其製法ノ改良ニ苦心シ之ヲシテ伯國ノ温暖ナル氣候ニ久シク堪エ得ル様ニ製造セシメンカ爲メニ屢々製造家等ニ勸諭スル所アリシモ其精製ノ良法ヲ發明スルニ至ル迄ニハ幾度モ種々ノ試驗ノ積マサルヘカラサル所ニシテ而シテソノ試驗ヲ爲スニハ亦タ多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ個人製造者ノ能ク爲シ得ル所ニアラスソレカ爲メ遂ニ今日ニ至ルモ未タ何等改良法ヲ見出サ、ルカ爲メニ尙ホ伯國ノ重ナル市場ニ於テハ外國

製品ノ販路頗ル廣シト云フ

ミナス州政府ハ近年重ナル市邑ニ於テ年四回牛馬及ヒ家畜共進會ヲ開キ以テ牛馬ノ改良ヲ獎勵シ且ソノ賣買ノ便益ヲ圖レリ

獸皮モ亦州ノ重要輸出品ノ一ニシテ重ニリヨ、サンパウロ兩州ニ輸出セララル、其高亦タ頗ル多シト云スト雖モ統計其他書類ノ之レカ精數ヲ知ルニ足ルモノナシ

因ニ云フ本官等ノ通過シタル各所ニ數箇ノ製皮所アリ而テ其重ナル者ヲジユイズ、
ダ、フララニ於ケル獨逸人持ノ製皮場ナリトス其規模ノ大ナルハ東京千住ノ櫻組製皮所ト伯仲ノ間ニ在ルモノ、如シ案内者ノ言ニ據ルニ所有主獨逸人ハ本ト一ノ職工トシテ二十餘年前ニ移住セシ人ナリト云フ

第五章 結論

ミナス州ニ於ケル我有利事業ハ農業(牧畜ヲ副業トスル)ヲ第一トスヘシ而シテ同州ノ農業ハ比較上サンパウロ州ト大同小異ナルモ大體ニ於テ左ノ相違アリ

一、本官ノ經過シタル地方ニ就テ之ヲ言フトキハサンパウロ州ハ山低ク平地多ク隨テ

耕耘ニ適スル土地廣キモミナス州ハ山高ク平地少シ尤モ州内ノ面積ハサンパウロ州ニ二倍スル趣全州内耕耘ニ適スル面積ヲ計フルトキハ敢テサンパウロ州ニ譲ラサルヘシ

二、サンパウロ州ハ鐵道ノ便幾シト全州ニ涉ルモミナス州ハ海濱ニ近キ小半部ニ過キス

三、サンパウロ州ニハ各耕主ニ雇役セラル、労働口廣ク千人ヤ二千人ノ労働者ハ突然來ルトモ決シテ之ヲ持餘サス三日ヲ出スシテ労働ニ就カシムヘシト保證スルモミナス州ハ然ラス多少労働雇ハレ口ナキニアラサルモ寧ロ一ノ企業家カ労働者ヲ引卒シテ殖民地ヲ作ルニ適セリ(此點ハサンパウロ州トテモ能セサルニアラス)在ミナス州ノ外國領事又ハ外國人ノ説ヲ聞クニ出稼労働者トシテ伯國耕主ニ雇ハル、ハ愚ナリ寧ロ自ラ農業主トナルトキハ二倍ノ利益ヲ收ムヘシ尙ホ充分ノ希望ヲ云ヘハ農民ノ外商工人マテ引連レ一日本村落ヲ創造シ一切土人ノ世話ニナラヌ方可ナリト州内各所ニ創立セル村落ハ伊太利「コロニー」又ハ獨逸「コロニー」ト稱シテ皆同一國民ノ集團ナリ故ニ當初本邦移

民ヲ送ルトキハ入り易キサンパウロ州ヲ擇フヘシ且移民保護人點ニ就テモサンパウロ州ハ旅費ヲ補助スルモミナス州ハ之ヲ爲サス
右ノ次第ニ付我國ハ先ツサンパウロ州ニ移民シ是ヨリ進ンテミナス州ニ及スヲ可トス但ミナス州トテモ目下獨、伊、西、葡ノ移民ハ續々渡來シ居レハ決シテ永ク忘ルヘキ地方ニアラス此二州ノ外ニ南リオグランデ、サンタカタリナ及ヒ巴拉ナノ三州ハ共ニ移民ニ適スル地方ナリ殊ニ南リオグランデ州ハ伯國ノ最南部ニ位スレハ四時其宜ヲ得テ各種ノ果樹ニ適シ而シテ州政府モ亦北米カリフォルニア州ニ比肩セントテ目下盛ニ獎勵シ居ル由ナリ左レハ同州ヲ一巡シタル人々ハ同州ヲ以テサンパウロ已上ノ有望地ト稱セリ同州ニ關シテハ追テ視察ヲ遂ケタル後報告スヘシ
扱又從前ノ報告ニ對シ或ハ疑問ヲ興シ伯國人ハ何故ニ白國ノ労働者ニ同情ヲ寄セスシテ外國労働者ヲ渴望スルヤ伯國內ニハ何故ニ廢耕ノ地多キヤト云フモノアランモ其ハ左ノ説明ニ依リ之ヲ解クヲ得ベシ

抑々當國ハ世人ノ熟知スルカ如ク本ト葡萄牙ノ殖民地ニシテ其人民ハ葡國遠征者又ハ

其子孫ナリ然ルニ彼等ハ初メ一攫千金ノ大望ヲ懷テ渡來シタルガ故ニ農業勞働ニ如キ區々タル業務ニ就クヲ好マス皆亞非利加ヨリ黒奴ヲ輸入シ之ヲ奴隷トシテ下等勞働ニ從事セシメタルモノト認メラレタリ故ニ奴隷制度廢止已前ハ各耕主ハ皆此黒奴ヲ強制使役シテ其事業ヲ擴張スルヲ得タルナリ千八百七十二年ノ調査ニ據シテ黒奴并雜種ノ數ハ幾ント純白人ノ二倍ニ居シリ即左ノ如シ

黒	人	二、〇〇〇、〇〇〇
土	人 (即チインディアン)	三、八〇〇、〇〇〇
白	人	三、七八七、二八九
雜種	人	三、八〇一、七八七
共計		九、九六八、〇七六

其後黒人ノ輸入停止シテ歐洲各國ノ移民開ケタルニ因リ現今ハ白人ノ數著ク増加シタルニ相違ナシ

然ルニ當國人民ハ本來佛國崇拜人僻アリ其ノ讓所ハ大抵巴里ノ刊行物ナレハ佛國ノ革命ハ端ナク自由平等ノ風氣ヲ當國ニ導キ漸次增長シテ千八百八十八年五月十三日

無條件ニテ奴隷制度ノ廢止ヲ斷行シタルカ爲メ本性怠惰ノ黒奴ハ隨意ニ其主ヲ離レ耕主ハ多額ノ賃銀ヲ拂フモ農業ヲ維持スル能ハス餘儀ナク耕地ヲ荒廢セシメタリ故ニ外國移民ハ實ニ當國ノ死活問題ニシテ耕主ハ勿論政府ノ當局者モ之ヲ渴望スルハ前述ノ理由ニ外ナラズコト、認メタリ現今黒人ノ中商工業ニ從事シ鐵道又ハ製造所ニ雇役セラレ或ハ官吏公吏タルモノナキニアラサルモ多クハ市邑ノ間ニ彷徨シ中ニ貧乏ニ陥リ乞巧ニ變スルモ鮮カラス故ニ黒人已外ノ伯國人ハ全ク同情ヲ黒奴ニ寄セズ餘儀ナク外國移民ヲ歡迎スルニ至レリ

因ニ云フ當國ニ於テ外國移民ヲ歡迎シタル結果ハ其形勢如何ニ變遷スヘキヤ深く考究ヲ要スル問題ナリ

北米合衆國ヤ加奈陀ヤ又ハ濠洲聯邦ニ於テ異色移民ヲ拒絕スルニ因リ當國モ同様ナラントノ疑惑ヲ懷クモノアレシモ彼ト此トハ全ク其事情ヲ異ニセリ最モ當國ニ於テモ支那移民ハ全ク歡迎セサルカ如シ

又農業賃銀並勞働者ノ生活費ハミナ大州モチリ州々略ニ同ナリ各耕主ハ元帳ヲ

扣へ各移民ノ出納ヲ記入スルニ因リ其殘餘金ヲ詳ニスルヲ得タリ各戸少キハ二百「ミルレーズ」多キハ四百「ミルレーズ」ニシテ平均三百「ミルレーズ」ト見テ可ナラン

(現今ノ相場ニテ我) 然ルニ自家ノ農作并牧畜又ハ薪材ノ賣出等ハ雇主ノ帳簿ニ上ラサルモノニテ労働者ノ心掛次第收入意外ニ多ク前記ノ金高ニ勝ルモノアリト云ヘリ實地ニ就テ之ヲ觀ルニ労働者ノ私作私畜ノ甚タ多キヲ認メリ但シ兩州農業賃銀カ本年本誌第四十號移民欄(伯國ノ富源並獨逸移民ト題スルモノ)ニ掲ケタル労働賃銀ト相異アルモノハ後者ハ地方巡回前ニリオ市並ベトボリス附近ノ賃銀ヲ集メタルモノニシテ比較上高キ例ト知ルヘシ市内並其附近ト農業地トハ其生活費ニモ差違アレハ賃銀ノ不同ハ自然ノ結果ナリ故ニ本邦移民ヲ企ツルモノハ市邑ノ賃銀ヲ目的トセスシテ農業地ノ賃銀ヲ目的トセハ大過ナカラシカ

南米渡航案内終

明治三十九年十一月二十日印刷
 明治三十九年十二月五日發行

南米渡航案内
 金 參 拾 錢

著 者
 所 有 權

著 者 水 野 龍
 發 行 者 中 山 三 郎
 印 刷 者 河 本 龜 之 助
 印 刷 所 國 光 社

東京市京橋區五郎兵衛町

發 兌 元 京 華 堂 書 店

文淵堂發兌圖書發賣元

東京市神田區表神保町

東京堂書店

東京市神田區裏神保町

上田屋書店

東京市京橋區尾張町二丁目

東海堂書店

東京市日本橋區吳服町

北隆館書店

東京市京橋區中橋廣小路六番地

前川文榮閣

大阪市東區南渡邊町

杉本書店

久留米市米屋町

菊竹金文堂

名古屋市宮町一丁目

星野文星堂

明治三十九年十一月改正

東京 金尾文淵堂書店

藏版圖書一覽

宗 教 書 類

網島梁川病間錄 (三版) 金壹拾圓 小包料拾錢

中村春雨新約物語 (再版) 金壹拾圓 小包料拾錢

同 舊約物語 (近刊) 金壹圓半錢 小包料五錢

中村春雨解讀 松井昇畫解 キリスト物語 (新刊) 金拾二錢 郵稅一錢

海老名彈正 靈海新潮 (新刊) 金八拾錢 郵稅八錢

清澤滿之 懺悔錄 (新刊) 金七拾錢 郵稅八錢

浩々洞同人 沈思錄 (近刊)

吉水智海 支那佛教史 (新刊) 金六十五錢 郵稅十五錢

雜 書 類

五十嵐力 兒童の研究 (新刊) 金壹拾圓 小包料拾錢

山路愛山 社會主義管見 (新刊) 金三十錢 郵稅六錢

子規自筆 俳人芭蕉 (木版) 金壹拾圓 小包料拾錢

蕪村自筆 俳諧三十六歌仙 (木版) 金壹拾圓 小包料拾錢

淺倉無聲 日本小說年表 (新刊) 金壹拾圓 小包料拾錢

安部磯雄 理想の人 (新刊) 金七拾錢 郵稅八錢

浩々歌客 鷗心錄 (近刊)

5/2/40

小 說 書 類

同	同	同	同	同	同	同	同
炬	犯	雛	無	密	秘	七	菊池幽芳
	さ		花	航	中	日	な
火	罪	鳩	果	婦	秘	間	男
(刊近)	(刊近)	(切賣)	(版十)	(刊新)	(刊近)	(切賣)	(冊二)
郵稅六錢	郵稅各六錢	郵稅八錢	郵稅八十錢	郵稅八十錢	郵稅八十錢	郵稅八十錢	各金六十錢 郵稅各八錢

小 說 書 類

同	同	同	同	同	同	同	同
火	良	良	間	緣	毘	舊	露
の	人	人	一	の	の	山	の
柱	の	の	髮	糸	歌	河	曲
(版三)	(冊三)	(冊三)	(刊新)	(刊新)	(版四)	(刊新)	(刊新)
金參拾五錢 郵稅六錢	各三十五錢 郵稅各六錢	各三十五錢 郵稅各六錢	金五十五錢 郵稅八錢	金七十五錢 郵稅八錢	金六十八錢 郵稅八錢	金六十八錢 郵稅八錢	金六十八錢 郵稅八錢

小説書類

巖谷小波喜劇七草(新刊) 郵金八十錢

佐野天聲脚本不死の誓(近刊)

薄田泣菫
白
羊
宮(新刊) 金包壹拾圓
暮
笛
集(三版) 郵金六十錢
白
玉
姫(新刊) 郵金八十錢
子
守
唄(近刊)

詩文畫集類

薄田泣菫
白
羊
宮(新刊) 金包壹拾圓

同
暮
笛
集(三版) 郵金六十錢

同
白
玉
姫(新刊) 郵金八十錢

同
子
守
唄(近刊)

與謝野鐵幹
む
ら
さ
き(品切)

同
與謝野鐵幹
毒
艸(四版) 郵金六拾錢

同
與謝野晶子
夢
の
華(新刊) 郵金八十錢

同
み
だ
れ
髪(品切)

詩文畫集類

與謝野晶子 小

扇 (四版) 金三十五錢 郵稅四錢

與謝野晶子 戀

戀 (三版) 金四十錢 郵稅四錢

野口米次郎 劍

戀の日本 (品切)

高安月郊 寢

草 (新刊) 金六十錢 郵稅八錢

河井醉茗 塔

影 (新刊) 金四十五錢 郵稅六錢

鳥居君子 上總のやどり

上總のやどり (新刊) 金二十錢 郵稅四錢

卅八年度白馬會紀念畫集

卅八年度白馬會紀念畫集 (新刊) 金九十錢 郵稅不

小林萬吾 風景水彩畫帖

風景水彩畫帖 (新刊) 金五十錢 郵稅不

月刊書類

島村抱月主幹

早稻田文學

每月一回 金二十一錢 郵稅一錢五分

丸山晚霞主幹

水彩畫講義錄

每月一回 金十五錢 郵稅一錢五分 會費一ヶ月六十錢

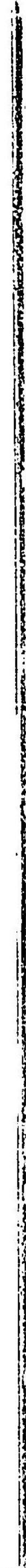
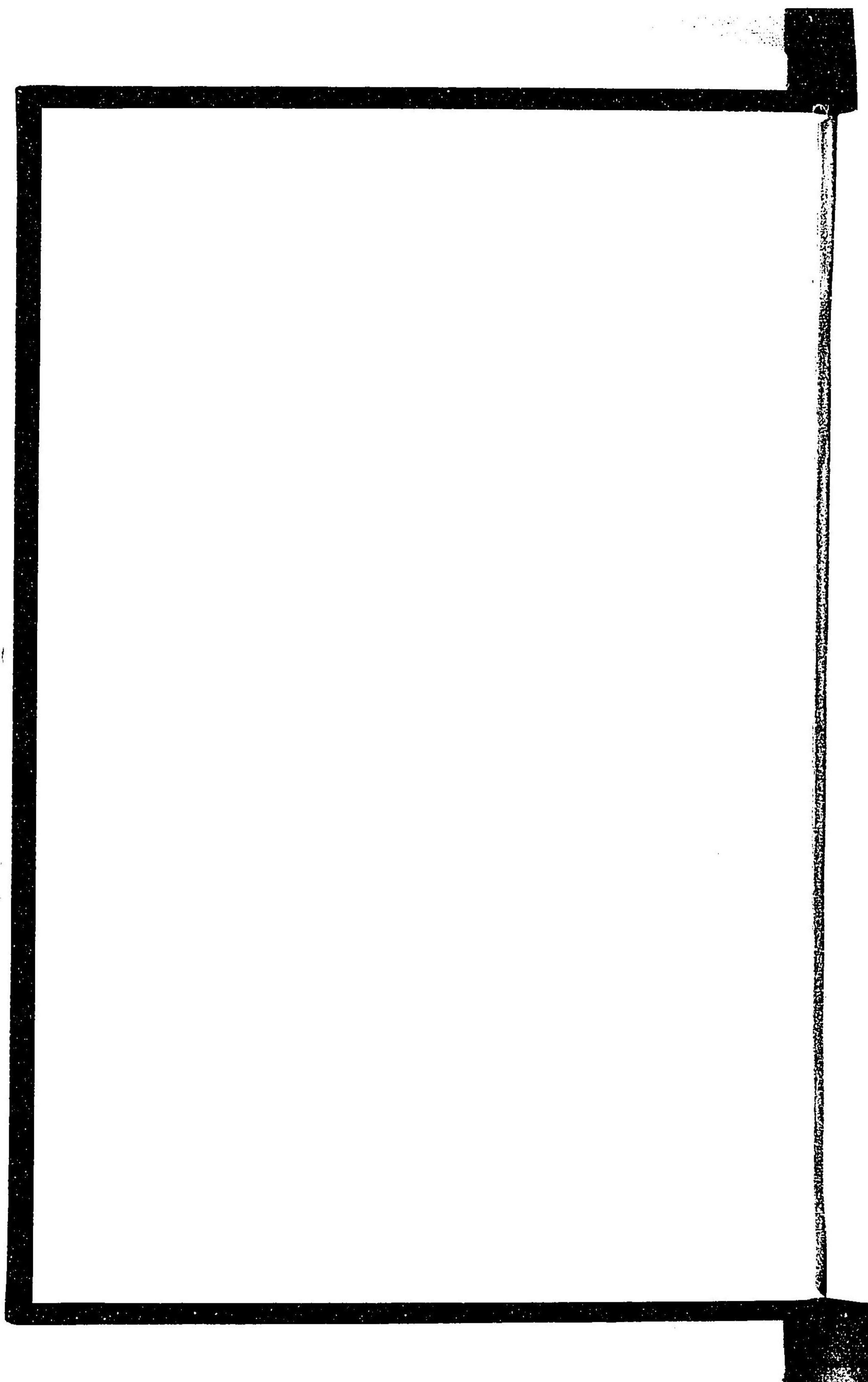
五ノX14

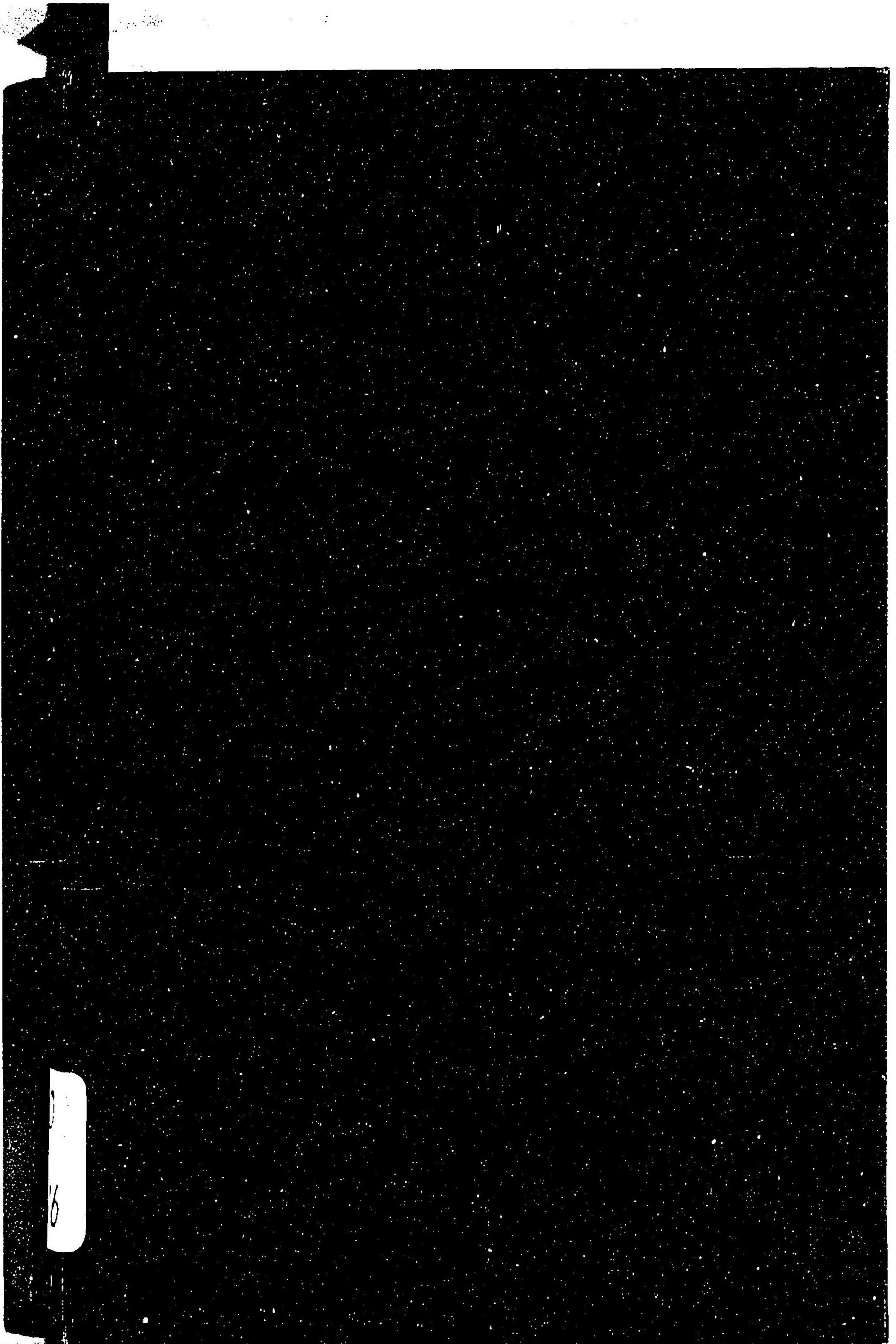
早稻田文學

東京牛込區樂王寺前町廿番地
編輯所 早稻田文學社
東京牛込區中町三十五番地
文藝協會事務所
○每月一回二日發行一冊廿錢郵稅一錢半
○一年前金二圓四十錢(郵稅不要)

一本誌は元坪内逍遙氏主幹の下に七年間文壇の重鎮たりしもの、一旦停刊の後明治三十九年一月新なる希望と抱負とを以て再興せられたるものなり。
一本誌は文學、美術、演藝、宗教、哲學、史傳、風俗、各方面の評論及び小説、詩歌、脚本等の創作、翻譯を文壇の新舊諸派にわたりにて、選拔採録すると共に、毎巻巻頭には數十頁の長論說若しくは創作翻譯等の完結せるものを載せ、是而已にても優に一冊の著書たるに足るの面目を具へしむ。
一本誌の彙報欄は文藝教育諸方面の現状を彙集し評拆して精博公平穩健を旨とし文壇の趨勢をして一眸の間に去來せしむ、是れ本誌の擅場なり。
一本誌現在の主幹者は鳥村抱月氏なり。
一本誌は文藝協會と聯合し之が機關として文藝の實際方面に活動する外、採録する所の文章には何等の偏したる標準をも挾むことなし。

發兌元 東京市京橋區五郎兵衛町二十二番地 金尾文淵堂





16

30
516

(M)

026931-000-9

30-516

南米渡航案内

水野 龍/著

M39

ADG-0051



